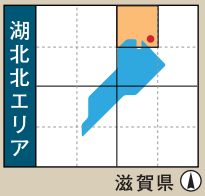
名勝
国指定

浄信寺庭園（じょうしんじていえん）

木之本町木之本　昭和9年12月28日指定



北国街道、木之本宿の浄信寺は、一般には木之本地蔵と呼ばれ、眼病平癒のお寺として親しまれています。時の権力者の崇敬を集め大いに栄えますが、戦乱や災害による堂宇の消失と再興を繰り返し、現在に至っています。庭園は、江戸時代中期の再興の際に整備された、鑑賞式の池泉庭園です。

当時のできごと	
674年	対馬より銀産出
1582年	本能寺の変
1583年	豊臣秀吉が大坂城を築き始める



浄信寺庭園

浄信寺について

浄信寺は、寺伝によれば、天武4年（675）難波の浦に漂着した、竜樹菩薩作の地蔵菩薩をここに安置したことに始まると、伝えられています。その後、菅原道真、木曽義仲、足利尊氏、足利義昭、豊臣秀吉、徳川幕府などの崇敬を集め、大いに繁栄しました。天正11年（1583）の賤ヶ岳の合戦に際しては、豊臣秀吉の本陣が置かれ、この時に伽藍は焼失しますが、豊臣秀頼が片桐且元に命じて再興。しかし、江戸中期の元文年間（1736～1741）に再び焼失。その後間もなく復興したのが、現在の伽藍です。庭園もこの際に整備されたものと考えられます。



浄信寺庭園　滝と亀島



浄信寺庭園

庭の構成

浄信寺庭園は、書院の北側に造られた、江戸時代中期の典型的な池泉鑑賞式庭園です。三方に高い築山を築き、前面に瓢箪形の池を配します。池の右寄りには亀をかたどった小島を浮かべ、これに対し、手前から突き出た石組の出島が鶴を表し、両者で蓬莱山を表現しています。右手奥の入り江には二段構成の滝石組があり、この庭の見どころとなっています。築山は、ところどころにマツやサツキが植栽されている他は、芝生になっており、築山の緩やかな起状がよくわかり、全体に、明るく穏やかな感じを与える庭となっています。



浄信寺庭園

[片目のカエルのいい伝え]

浄信寺には、眼病の信者に、自分の片方の目を譲ったため、片目をなくした蛙が住むと、昔からいい伝えられています。庭園や境内にたくさんいる置物のカエル達も、やはり片方の目をつむり、礼拝する人々が、目を患わないよう願掛けをしているかのようです。

関連する文化財

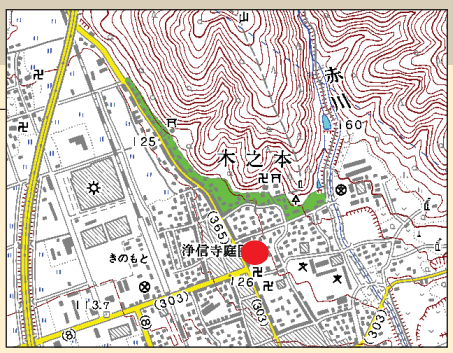
浄信寺木造地蔵菩薩立像他（重文）	浄信寺の本尊として安置される秘仏。仁治3年（1242）に近在の住民の結縁により修復されている
県名勝理覚院庭園（高月町）	学習シートNo.104
旧北国街道木之本宿（木之本町）	北国街道の宿場の面影を今に伝える町並み
田上山城跡（木之本町）	賤ヶ岳合戦時の羽柴軍の実質的な本陣。秀吉は浄信寺に陣を置いた

もっと深く知りたい

木之本町教育委員会　☎0749-82-4111　滋賀県伊香郡木之本町木之本1757-6

浄信寺庭園へのアクセス

ＪＲ北陸本線　木之本駅下車
北陸自動車道　木之本インター



【参考文献】〔日本庭園史体系〕社会思想社　〔滋賀の美 庭〕京都新聞社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月